

◆平成 31 年度事業方針◆

〔第五号議案〕

平成 31 年度事業方針について

昨年度は臨床検査技師に関わる医療法の改正があり、私達を取り巻く環境やこれまでの認識を転換することになった。具体的には標準作業書の整備、精度管理の充実、記録の管理などが定められた。これは、臨床検査がどこの施設でも正確に安全に、安心して受けられるために必要な環境整備である。さらに、検体の採取から結果の報告までの全工程を臨床検査技師が責任を持つことが、臨床検査技師の本来の責務であることが世の中に再認識されたのではないかと考える。

新体制 2 年目となる本年度は、「オールみやぎ体制」、「後進の育成」、「施設間のネットワーク構築」のため、より一層の連携を進め、さらなる組織の強化を進めていきたい。

第 51 回みやぎ医学検査学会（藤巻学会長）が 6 月 23 日に東北大学医学部開設百周年記念ホールにて開催される。テーマは「私は臨床検査技師 2 ～主体性×多様性×可能性～」とした。半世紀目の歴史ある学会でそれぞれの臨床検査技師像を見つめ直す機会にしたい。

昨年度初めて開催したニューリーダー育成のための研修会や認知症検査などの職能開発に関する研修会などを積極的に企画し、次世代の臨床検査技師の育成を進めたい。

公益事業部では、「検査と健康展」を主軸にして、一般市民の方々に臨床検査技師を認知していただく企画を継続したい。

学術部では、県内施設のレベルアップを目指した複数部門による合同研修、ホームページによる学術情報の発信、精度管理事業および公益事業への支援を実施したい。

精度管理部では、例年通り宮城県内の医療機関・検査機関へ試料を配布し調査を実施し、二次サーベイあるいはフォローアップ研修を実施し、検査精度の継続的な品質向上につながる仕組みを構築したい。

広報部では、ホームページによる情報発信および電子メールを活用した広報を検討したい。

来年度開催予定の第 69 回日本医学検査学会（福臨技主催）は、開催地が仙台であるので、宮臨技会員の全面的な協力が求められている。したがって、全国学会を運営するこの機会をうまく活用し、多くの会員が積極的に参画して頂けるような宮臨技の組織にしていきたい。

－ 平成 31 年度事業計画案について－

【総務部】

1. 総務・法規・組織

- 1) 会務の執行体制としては、基本的に現在の 7 部門（学術部、精度管理部、広報部、総務部、会計部、公益事業推進部、事務局）で行う。
- 2) 一般社団法人宮城県臨床検査技師会としての公益目的実施事業の遂行と適時適正な規定の見直しに取り組みたい。

2. 各種表彰

- 1) 青木賞（第 51 回みやぎ医学検査学会奨励賞）

第 51 回みやぎ医学検査学会において発表された業績に対し、表彰規程により選考し令和 2 年度定時総会にて表彰したい。

2) その他

日臨技を含む各種団体からの推薦依頼に対しそれぞれの推薦要領に従い推薦に努めたい。

【事務局】

1. 事務局運営について

- 1) 日臨技・宮臨技・各関係団体からの情報・案内等の定期発送のみならず、ホームページやメール等を活用して、会員への迅速な周知を図りたい。
- 2) 学術部門と連携を図り、会員にとって有益な研修会等を企画開催し、宮臨技会員の学術レベルのさらなる向上を計りたい。また、円滑な学会・研修会運営のために必要な備品（ノート PC・ケーブル等）の更新を行いたい。
- 3) 公益事業部と連携して日臨技主催「検査と健康展」を企画開催し、臨床検査技師の知名度向上や定期健康診断の必要性の啓蒙を計りたい。
- 4) 検体採取等に関する厚生労働省指定講習会について、開催情報をホームページ等で告知し、宮臨技会員のみならず県内の臨床検査技師すべてが受講されるよう周知に努める。
- 5) 宮城県臨床検査協議会、災害メーリングリスト等、震災復興における宮臨技の取り組みとして、各施設・各団体との連携を図り、災害時の検査技師の役割等について協議し、情報共有を計りたい。
- 6) 宮臨技事務所内の整理整頓を行い、各種資料の確認と保存に努めるとともに、作業環境の改善、広い会議スペースの確保を図りたい。

2. 生涯教育研修事業

日臨技総合生涯教育研修委員会と連絡を密にし、会員へ生涯教育研修の必要性と自発的参加を啓発する。日臨技では認定センターにおいて、従来からの認定心電検査技師日臨技認定や認定一般検査技師制度に加え、認定認知症領域検査技師制度、認定救急検査技師制度、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師制度、認定病理検査技師制度などの各種認定事業を勧めている。これらの認定試験では、受験資格として日臨技生涯教育研修制度を修了していることが必須となっている。そのため、多くの研修会に参加している会員の為にも宮臨技主催研修会はもとより、他団体主催の各種研修会に参加した際の自己申告にも適時対応していき、認定試験を受けやすい環境整備に努め、さらに宮臨技会員のレベルアップに貢献していきたい。

ニューリーダー、職能開発や将来を見据えた臨床検査技師の身分保障への取り組みなど、社会情勢を注視し、日臨技とともに活動を行っていききたい。

3. 平成 31 年度の各種会議開催

1) 総会

平成 31 年度 定時総会 1 回

平成 31 年度 臨時総会 必要に応じて

2) 理事会

年 6 回開催予定（原則として隔月）

3) その他 三役会議

年 1、2 回予定（必要に応じて）

【公益事業部】

1. 関連団体支援事業

宮城県および仙台市における HIV 支援事業や、自治体、関連団体の健康イベントに参画し、各関係団体との連携を強化しながら地域住民への啓発活動や医療の質向上のために貢献していきたい。

2. 技師会主催事業

平成 31 年度も日臨技主催“検査と健康展”を開催する。引き続き、定期的な健康診断の重要性を啓発し、臨床検査技師の認知度向上につなげられるような企画としていきたい。そのために積極的な広報を行って来場者をこれまで以上に増やしていきたい。

【学術部】（公益目的支出計画事業）

1. 研修会・講習会等

- 1) 昨年度同様、会員のニーズに対応するテーマを選び、研修会、講習会の企画、準備、運営を行う。
- 2) 各部門専門課程研修会 2 回以上を目標に開催したい。
- 3) 部門単独の研修会のみならず、複数部門の連携による合同研修会の開催。
- 4) 共催研修会への協力。

2. 学術部門について

平成 31 年度も 30 年度と同様に会員に有益な学術的情報を発信するために、部門活動の充実と関連部門との連携をより一層強化したい。

- 1) 研修会予定、報告のホームページへの迅速な掲載をおこない情報を会員へ発信していく。
- 2) 精度管理事業への支援体制の推進。
- 3) 検査健康展など公益事業への協力。

【精度管理部】（公益目的支出計画事業）

1. 精度管理事業

平成 24 年度から宮臨技精度管理調査は「日臨技精度管理事業データ標準化システム JAMTQC」の運用を開始した。8 年目となる平成 31 年度もこの Web システムを使用継続して精度管理調査を実施したい。

- 1) 実施項目は昨年同様、日臨技精度保証施設認証制度対象項目を全て満たしたい。
- 2) 実施日程は下記のように行なうこととしたい。

7 月：案内郵送後に、Web 参加申し込み開始

- 10月：試料および要綱（設問）発送
- 11月：模範解答のホームページ公開、施設別報告書（Web）の解禁
- 12月：宮城県管轄登録衛生検査所に対する最終報告書を宮城県に送付
- 2月：全体報告書の発行、送付
- 3月：精度管理調査報告会・精度管理研修会の開催

3) アドバイザーの選任について

平成31年度も昨年度と同様にアドバイザーを選任し、円滑な精度管理調査実施に努めたい。

2. 精度保証施設認証

平成23年度から宮臨技精度管理調査の項目数は、精度保証施設認証制度の基準を満たしたので、「一般施設認証」を行うことが可能となった。

自施設の精度保証、データの信頼性の裏付けともなるので、精度保証に対する会員認識を高め、施設認証を受けるメリットについても再考してもらい、新規申請する施設を増やしていきたい。

平成26年度から日臨技に直接申請することとなった。詳しくはホームページを参照願いたい。

【広報部】

他部門とも連携し、ホームページ、ニュースみやぎの発行を通して、技師会活動、公益事業、学術事業などの迅速かつ簡潔な情報提供を行いたい。「ニュースみやぎ」では宮臨技の理事の活動報告や施設紹介などを行っていききたい。従来の会誌による情報発信に加え、議事録の都度掲載など会員または一般の方へ迅速な情報発信が可能なインターネットツールを利用した仕組みを模索し、公益事業協力者などの募集に活用したい。

【会計部】

1. 会員管理

未登録の方や企業への呼びかけを行い、正会員および賛助会員の増加を図りたい。

2. 会計処理

理事、各委員の方たちの協力を得て、迅速な会計処理に努めた上で、事業収支の見える化も進めていきたい。また、会費収入と事業支出のバランスの適正化を図り、長期的に安定した法人経営になるよう会計として努力していきたい。